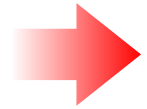


## アジア太平洋地域各国の中等学校における放射線教育の効果に関する研究

### 背景

- ・ 2011年に発生した東京電力・福島第一原子力発電所での事故
- ・ 事故以降、放射線に関する知識や理解の不足が要因のひとつとなり、社会全体に混乱



バランスの良い放射線教育を通して、放射線に関する基礎的な知識の普及と定着、放射線に興味を持ってもらうことが重要

### 実施内容

- ① 日本を含むアジア太平洋地域 8 か国の中等学校でアンケート調査を実施
- ② 収集した回答を分析し、放射線教育の効果を明らかにする
- ③ ワークショップで得られた教員の自由記述回答の整理

TTWS2021  JPN

- ① 学校における放射線教育について、効果的な教育内容や方法を提示することができる
- ② より効果的な授業を構成することができるようになり、放射線リテラシーの向上につながる

## ①放射線教育の実施とアンケート調査

### 調査方法

放射線に関する授業後に、学生と教員それぞれが選択式アンケートに回答

### 調査内容

- ・ 教員のもつ価値観
- ・ 実際の授業実施の概要（項目別の内容やその時間等）
- ・ 学生の放射線に対する授業前後の印象・知識・興味

## ③自由記述回答の整理 TTWSJPN<sup>2021</sup>🌻

✓狙い

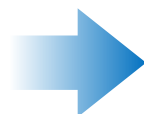
実際に現場で教育に携わっている教員の意見を取りいれたい

✓質問内容

- ・ 各講義のテーマを中等学校でどのように教えるべきか
- ・ 各講義のテーマで、生徒が驚き興味がわくポイントは何か等々

## ②放射線教育効果の分析

- ✓学生の放射線に対する印象の変動に関する分析
- ✓学生の放射線に対する知識の変動に関する分析
- ✓学生の放射線に対する興味に関する分析



教員の教えた内容、それぞれの項目にかけた時間、教員の価値観によって学生の印象・知識・興味がどのように変化するかが明らかになる

✓ワークショップ

放射線防護に焦点を当てて、12か国20名の教員に対して複数回の講義を実施し、講義を受けた教員が回答

③の整理した回答を②の恐育効果の分析結果と組み合わせよりよい放射線教育の内容と手法を提案